



きらめき★奈良

第15号

子どもたちには夢があります。未来があります。可能性があります。
私たちの大切な宝である子どもたちが、自らの力で輝き、地域や社会、未来を照らす光となるように、奈良市ではさまざまな教育を行っています。
奈良市教育だより『きらめき☆奈良』では、奈良市の教育を紹介します。



放課後子ども教室で地域の方と竹細工づくり（富雄第三小）

教育委員会では、「21世紀の社会をたくましく生き抜く人材の育成」を目標に、教育大綱を定め、教育振興基本計画の5つの方針に沿って様々な事業を行っています。今号では、そうした教育委員会の取り組みについて紹介します。

奈良市教育振興基本計画

- 基本方針1 教員を変える「学び続ける教員であるために」
- 基本方針2 子どもの学びを変える「次世代を見据えた教育の推進」
- 基本方針3 子どもの学びを支える「学びのセーフティネット」
- 基本方針4 子どもの学びの場を変える「学習環境の充実」
- 基本方針5 市民と協働した教育を進める「30万人の市民を先生に」

2・3面 特集

教育委員会の取り組み

21世紀をたくましく生き抜く子どもたちを育てる5つの方針

4面

★教育長の「見る・聞く・語る」
★新教育委員からメッセージ

教育委員会の 取り組み

21世紀をたくましく生き抜く
子どもたちを育てる5つの方針



世界遺産学習現地学習 ボランティアガイドの方の話を熱心に聞いています。

教員を変える

部活動支援を拡大



学校応援サポートチームの
担当者が訪問

【平成 29 年度派遣予定】
外部指導者 6,800 回
外部顧問 970 回

専門的な指導ができる外部指導者や単独で部活動の指導・引率ができる外部顧問を市立学校の部活動へ派遣し、部活動の充実と教員の負担軽減を図り、教員が生徒に向き合う時間を作ります。

学び続ける教員であるために

教員個別訪問研修を拡大



1日の教育活動を撮影した
画像を振り返りながら、
アドバイスします。

経験豊かな校長 OB を含む指導主事が学校での若手教員の 1 日の教育活動を見守り、一人一人に応じた研修を実施し、指導力の向上を図ります。

平成 28 年度 のべ 1,019 回実施 (平成 29 年度は中学校の対象者を 広げて実施します。)

子どもの学びを変える

市独自の学力向上システムを拡大

学力向上システム「学びなら」を 4 年生は全校、5・6 年生はモデル校へ展開します。学力データを分析し、個々の理解度、苦手分野に合わせた練習問題を提供することで、「タイムリーでオーダーメイド型の教育」を進め、学習意欲の向上と学力の定着をめざします。



「学びなら」システムを使った学習 (あやめ池小)

次世代を見据えた教育の推進

ICT 環境の整備



タブレット端末を使用した授業

ICT を効果的に活用しながら児童生徒に必要な力を身につけさせていくために、全市立学校にタブレット端末の配置を進めます。

充実した英語教育

小・中学校に ALT (外国語指導助手) を派遣しています。小学校低学年と高学年には、英語に堪能な地域



オンライン英会話で Talking
(富雄第三中)

人材も派遣し、担任と児童を支えます。今年度からは中学 1・2 年生にオンライン英会話も実施予定です。英語で自分の考えを伝えられる子どもの育成をめざします。

子どもの学びを支える

学びのセーフティネット

スクールカウンセラーの配置

全市立学校にスクールカウンセラーを配置し、保護者から子育てや発達等の悩み、不登校や学校生活での悩み等の相談を受けています。

児童生徒にもカウンセリングを行い、教室へ出向き心の変化を見守っています。

不登校対応カウンセラーを小学校へ

昨年度から不登校の未然防止のために不登校対応カウンセラーを教育センターに配置しています。不登校対応カウンセラーが全市立中学校を巡回し、新たな不登校を生まない体制づくりを進めるとともに教育センターで行っている不登校支援と学校との連携を図っています。

今年度は全市立小学校への巡回を行い、実態把握と適切な支援に努めます。



不登校対応カウンセラーによるカウンセリングの様子

いじめ対策を強化

全市立学校にいじめ対策のリーダーとなる「いじめ対応教員」を位置付けています。今年度は、「いじめ対応支援教員」を16校に配置しています。

さらに、教育委員会事務局にも「学校応援いじめ対応サポーター」を2人配置し、各校を巡回して、いじめの未然防止に努めます。



定期的に学校を訪問し、校長や「いじめ対応教員」と面談します。



生徒による発表（ストップいじめなら子どもサミット）

子どもの学びの場を変える

学習環境の充実

全市立中学校で給食を導入

食育を推進するために、市立中学校での給食に取り組んできました。この4月には最後の導入校である都南中学校で給食が始まりました。生徒の心身の健全な発達と食に関する正しい理解や食をバランスよく選択する力を養っていきます。



都南中で給食開始

小学校で少人数学級を実施

小学校での基礎学力及び基本的生活習慣の定着のため、低学年で1学級あたり30人、中学年で1学級あたり35人を上限に市独自で少人数学級編制を行っています。

きめ細かな指導を通して、児童の学習意欲や態度の向上など、学校生活を支える基盤となる力を育てます。



少人数できめ細かな授業を実施

市民と協働した教育を進める

30万人の市民を先生に

「放課後子ども教室」を全小学校で実施

各小学校運営委員会が中心となって、子どもたちの安全安心な居場所を設けると同時に、伝統文化活動や地域住民や異なる年齢の子ども同士の交流活動等、多様な体験を提供しています。



大学生と一緒にカルタあそび（鳥見小）

「地域で決める学校予算事業」を拡充

各中学校区の地域教育協議会が中心となって、学習支援や部活動支援、登下校の安全確保、地域と学校の合同行事等といった地域の住民による学校支援活動や特色ある教育活動の充実を進めています。



苺摘み体験（興東小）



教育長の「見る・聞く・語る」

予測困難な社会で生きる力を身につける

掃除やホテルでの受付をするロボット、自動運転の車など「AI(人工知能)」が私たちの生活の中にどんどん入ってきており、未来を予測することが困難な時代と言われています。皆さんは、次のような話をお聞きになったことがありますか？

2011年8月のニューヨーク・タイムズ紙で米デューク大学の研究者であるキャシー・デビッドソンさんの研究が発表されました。そこには「米国で2011年度に入学した小学生の65%は、大学卒業時、今は存在していない職に就くだろう」とありました。今は2017年、既に当時から6年過ぎていますので、あと10年後の姿です。すなわち、現在の中学1年生が10年後に大学を卒業する姿がちょうど当てはまることになります。

このような変化の激しい予測不可能な社会の中をたくましく生きていくために、子どもたちに必要な力とは、困難にへこたれず、他者を巻き込み、協働しながら新しい価値を創造する力です。黒板とチョークだけを使って先生が一方的に話す授業だけでは、世界を変えていくような類まれなるリーダーをつくることはできないと思います。子どもたち一人一人は、様々な可能性をもった存在です。子どもたちが、多くの人と関わりながら学び、その学びを通じて、自分の存在が認められることや自分の活動によって何かを変えたり、社会をよりよくしたりできることなどの実感をもてるような取組を多く行うことが、世界を切り開く人材を育てることにつながっていると思っています。



初任者研修でロボットと話す中室教育長

新教育委員からメッセージ



よしだ しんや
吉田 信也 さん

奈良女子大学附属中等教育学校副校長を経て、現在は、奈良女子大学全学共通教授。

子どもたちには、自分の頭で考えて行動し、自由に生きる人に育ってほしいと思っています。自由には責任が伴い、他人の自由も尊重してこそ真の自由といえることを理解し、多様性を楽しむ人になってほしいのです。

自分が理想と考える生き方をしようと思っても、社会では様々な壁が立ちはだかつてうまくいかないことも多くあります。そんなとき、自由に生きるためには壁を打ち破る力が必要です。子どもたちがいま学校で学んでいる教科の力、部活動で培っているスポーツや芸術の力、総合的な学習の時間での協働する力等が、自由に生き抜くための基礎力となると考えます。

かつて日本の中心であった歴史を持ち、今後も日本の中心となり得る力を持つと思われる奈良市において、自由に生きる力を持った子どもたちが育つような教育方針の策定、教育環境の整備のために尽力したいと思います。

ところで教育委員とは？

教育委員は人格が高潔で、教育、学術及び文化に関し識見を有するもののうちから、議会の同意を得て市長が任命します。教育長と4人の教育委員が定例教育委員会で話し合って奈良市の教育の基本的な方針や方向性を決めていきます。



きらめき☆奈良については、[奈良市教育だより](#)

記事に対するご意見や感想等がございましたら、下記までお知らせください。



おはよう おかえり こんにちは
声かけ 気かけ 笑顔かけ
守ろう、地域の子どもたち
毎月17日は「子ども安全の日」です。

奈良市教育委員会事務局 教育政策課

〒630-8580 奈良市二条大路南一丁目1番1号

Tel.0742-34-5386 Fax.0742-34-4597